

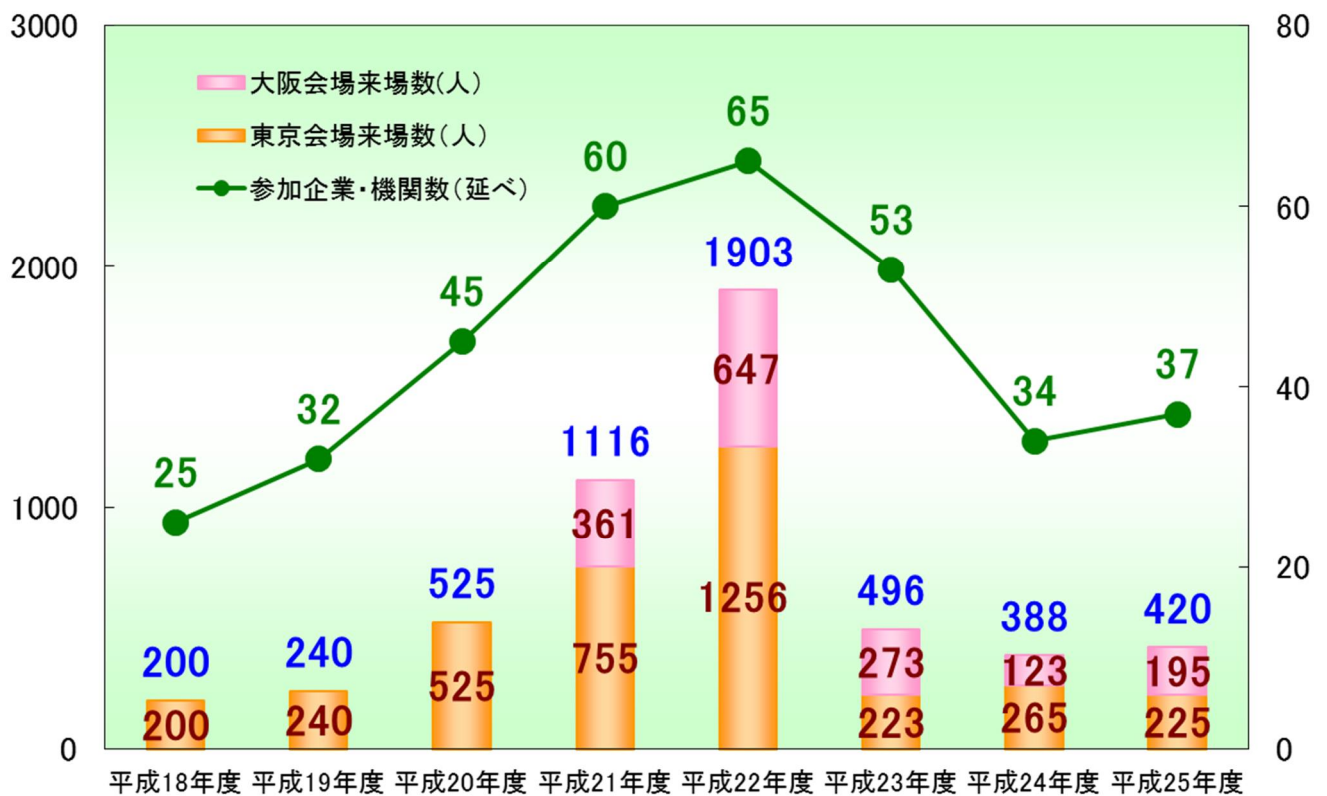
原子力産業セミナー 2015 報告書

(一社) 日本原子力産業協会および関西原子力懇談会は、2015年卒の大学生 (3年生)・大学院生 (修士1年生) を主な対象に、原子力産業への理解促進・情報提供ならびに学生及び原子力産業に関わる企業・機関の就職・採用活動の支援を目的に、合同企業説明会「原子力産業セミナー2015」を以下の通り開催いたしましたので、ご報告申し上げます。なお、本セミナーは今年度で8回目の開催となります。

1. 概要

() 内の数字は昨年度のものです。

	東京会場	大阪会場	
開催日	平成 26 年 1 月 12 日 (日)	平成 25 年 12 月 22 日 (日)	
開催場所	東京ファッションタウンビル HALL1000	新梅田研修センター G・Lホール	合計
来場学生数	225 人 (265 人)	195 人 (123 人)	420 人 (388 人)
参加企業・機関数	22 社 (21 社)	15 社 (13 社)	37 社 (34 社)



原子力産業セミナーの来場数および参加企業・機関数の推移

2. 実施内容

①学生へのプロモーション

今年度セミナーでは、早い段階で原子力産業を認知してもらうとともに、産業としての魅力や働くことの魅力などを効果的に伝えるために、大手就職情報会社である（株）マイナビとも連携し、積極的なプロモーションを展開しました。

具体的には、若手技術者・研究者へのインタビューをWEB動画（マイナビTV）で配信したり、マイナビJOBフェスタ（講演会）に参加し、原子力産業理解活動を行いました。

採用イベントなどが告知可能となる12月以降は、マイナビWEB（*）への原子力産業特集の掲載、マイナビよりの来場促進紙ダイレクトメール（DM）の発送（機械系・電気系対象）、WEB-DMの送信（機械系・電気系対象）、学生の自宅に送付する就職情報誌へのチラシ同封（機械系・電気系学生対象）、大学就職課へのポスター送付、当協会・関西原子力懇談会と関係のある大学関係者に対し、学生への告知依頼などの活動を展開しました。

* 業界最大級の学生登録数（毎年約 68 万人）と掲載企業を有する総合就職情報サイト。



原子力産業特集トップ画面

マイナビ JOB フェスタでの講演の様子

②セミナー当日（イベント）

原子力産業セミナーの当日は、2015年卒の理工系の大学生・大学院を主な対象とした各企業・機関による採用活動ブース（企業PRや採用活動の場として各企業・機関が自由に使用）の出展、大学教授によるエネルギー問題や若手社員による講演会の開催、展示コーナー（パネル展示など）、コミュニケーション・エリア（参加企業・機関の担当者と学生が個別に話しをしたい時に、コミュニケーションをとるためのエリア）の設置を行いました。

3. 後援・協賛

以下の通り、13団体・機関からの後援・協賛を頂きました。

後援：原子力委員会、文部科学省、経済産業省

協賛団体：公益社団法人応用物理学会、独立行政法人国立高等専門学校機構、一般社団法人電気学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本保健物理学会

4. 参加企業・機関一覧

電力関連企業(五十音順)		東京会場	大阪会場
1	関西電力株式会社	○	○
2	中国電力株式会社		○
3	中部電力株式会社	○	○
4	J-POWER (電源開発株式会社)	○	
5	日本原燃株式会社	○	○
重電、機械メーカー(五十音順)		東京会場	大阪会場
6	株式会社 IHI	○	○
7	株式会社東芝	○	○
8	株式会社日立製作所	○	○
9	三菱重工業株式会社	○	○
プラント・エンジニアリング企業等 (五十音順、*は初参加)		東京会場	大阪会場
10	株式会社アトックス	○	○
11	岡野バルブ製造株式会社	○	
12	関電プラント株式会社		○
13	原燃輸送株式会社	○	
14	新日本空調株式会社	○	
15	株式会社千代田テクノ	○	○
16	株式会社テプコシステムズ	○	
17	株式会社東京エネシス	○	
18	東芝プラントシステム株式会社	○	
19	日本マタイ株式会社*	○	
20	株式会社BWR 運転訓練センター	○	
21	Hitz 日立造船株式会社*		○
22	株式会社日立プラントコンストラクション	○	
公益・特殊・独立行政法人(五十音順)		東京会場	大阪会場
23	原子力規制委員会原子力規制庁・ 独立行政法人原子力安全基盤機構	○	○
24	原子力発電環境整備機構	○	○
25	独立行政法人日本原子力研究開発機構	○	○
合計		22	15

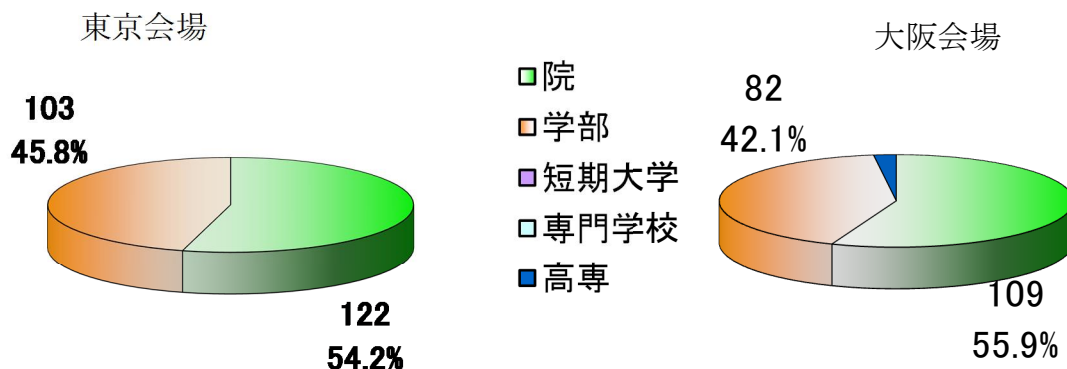
*福井県原子力平和利用協議会敦賀支部青年部からの展示協力がありました。(大阪会場)

5. 来場学生データ

来場学生データは、学生がセミナー会場へ入場する際に提出する「受付票」の集計結果をまとめたものです

①所属（学部・院の割合）

両会場ともに院生の割合が高いのが特徴です。

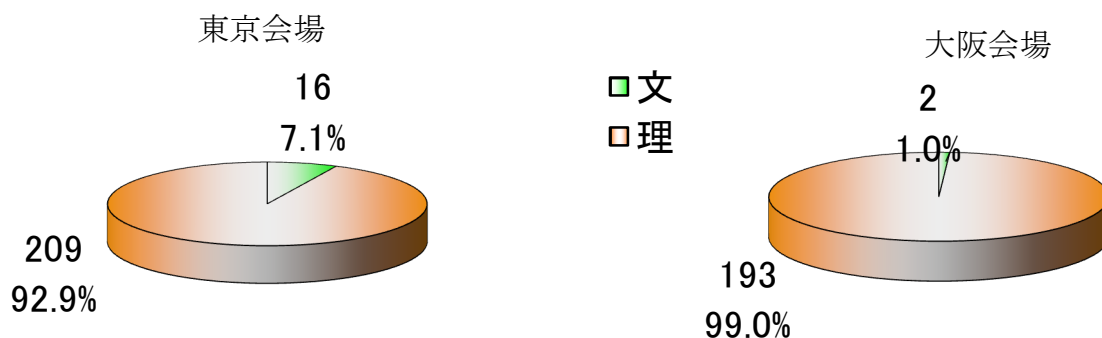


所属	東京会場		大阪会場	
	人数	割合	人数	割合
院※	122(149)	54.2%(56.2%)	109(83)	55.9%(67.5%)
学部	103(111)	45.8%(41.9%)	82(39)	42.1%(31.7%)
短期大学	0(0)	0%(0%)	0(0)	0%(0.0%)
専門学校	0(0)	0%(0%)	0(0)	0%(0%)
高専	(1)	0%(0.4%)	4(1)	2.1%(0.8%)
合計	225(265)	100%(100%)	195(123)	100%(100%)

※マスター、ドクターを合算しております。
四捨五入の関係上、合計が100%にならない場合があります。
()内の数字は、昨年度のもので。

②文理別割合

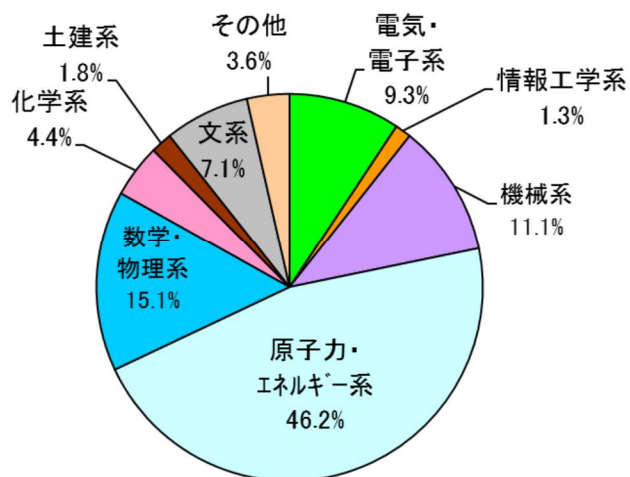
昨年度を比較すると、文系の割合が低くなっています。



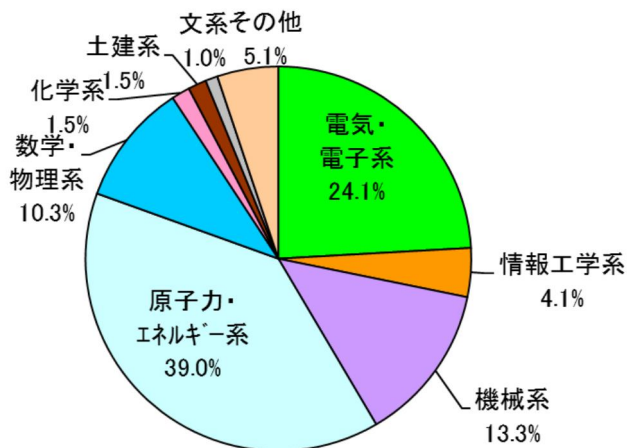
来場者合計	東京会場		大阪会場	
	人数	割合	人数	割合
文	16(23)	7.1%(8.7%)	2(8)	1.0%(6.5%)
理	209(241)	92.9%(90.9%)	193(115)	99.0%(93.5%)
合計	225(265)	100%	195(123)	100%

③来場学生の学科別割合

東京会場



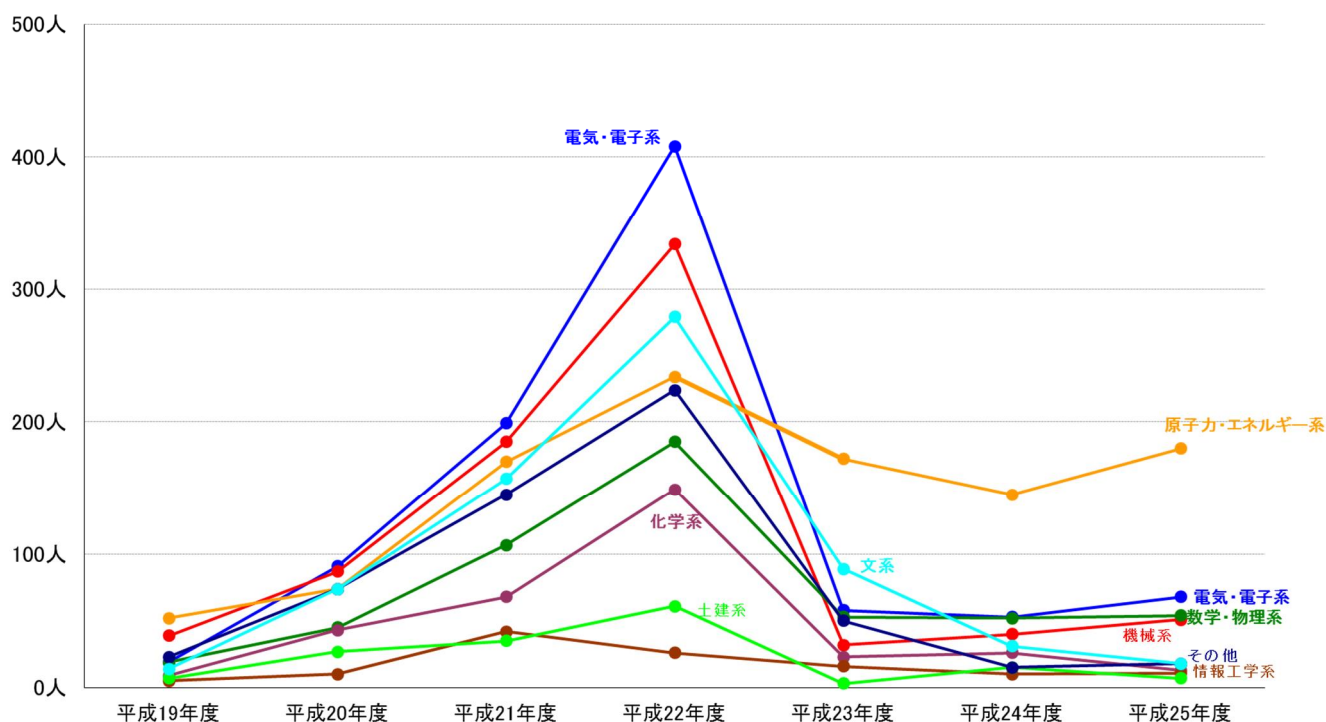
大阪会場



分野	東京会場		大阪会場	
	人数	割合	人数	割合
電気・電子系	21(23)	9.3%(8.7%)	47(30)	24.1%(24.4%)
情報工学系	3(6)	1.3%(2.3%)	8(4)	4.1%(3.3%)
機械系	25(25)	11.1%(9.5%)	26(15)	13.3%(12.2%)
原子力・エネルギー系	104(122)	46.2%(46.2%)	76(23)	39.0%(18.7%)
数学・物理系	34(34)	15.1%(12.9%)	20(18)	10.3%(14.6%)
化学系	10(16)	4.4%(6.1%)	3(10)	1.5%(8.1%)
土木系	4(4)	1.8%(1.5%)	3(11)	1.5%(8.9%)
文系	16(23)	7.1%(8.7%)	2(8)	1.0%(6.5%)
その他	8(11)	3.6%(4.2%)	10(4)	5.1%(3.3%)
合計	225(264)	100%	195(123)	100%

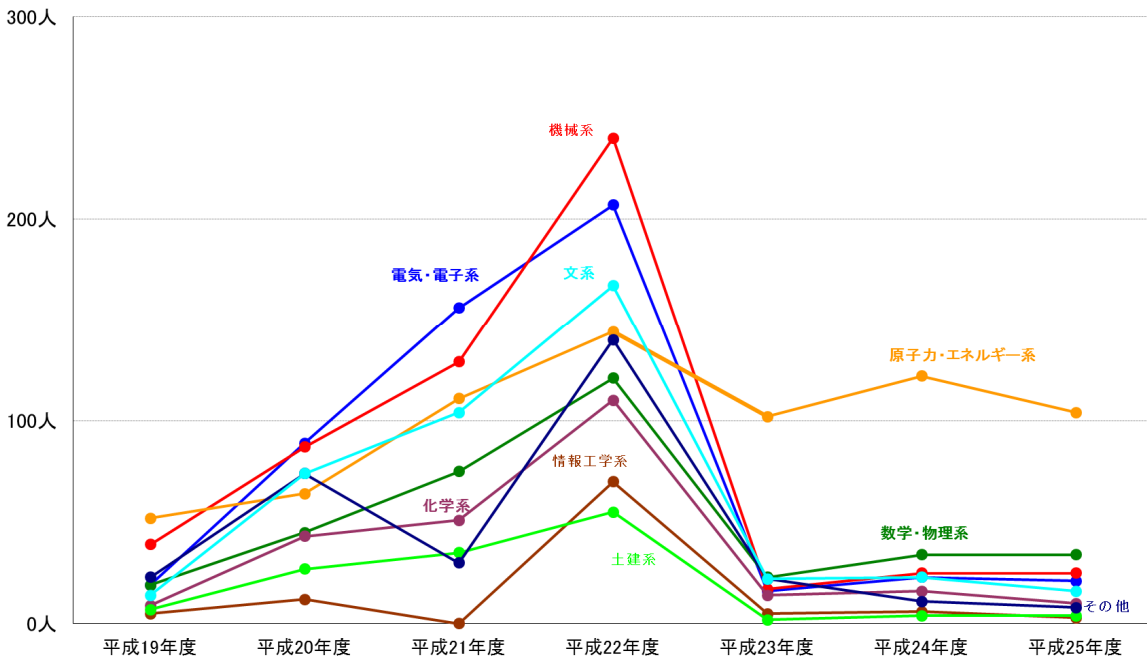
()内の数字は、昨年度のものです。

④来場学生の学科別人数の経年変化
 (東京会場+大阪会場：全体)

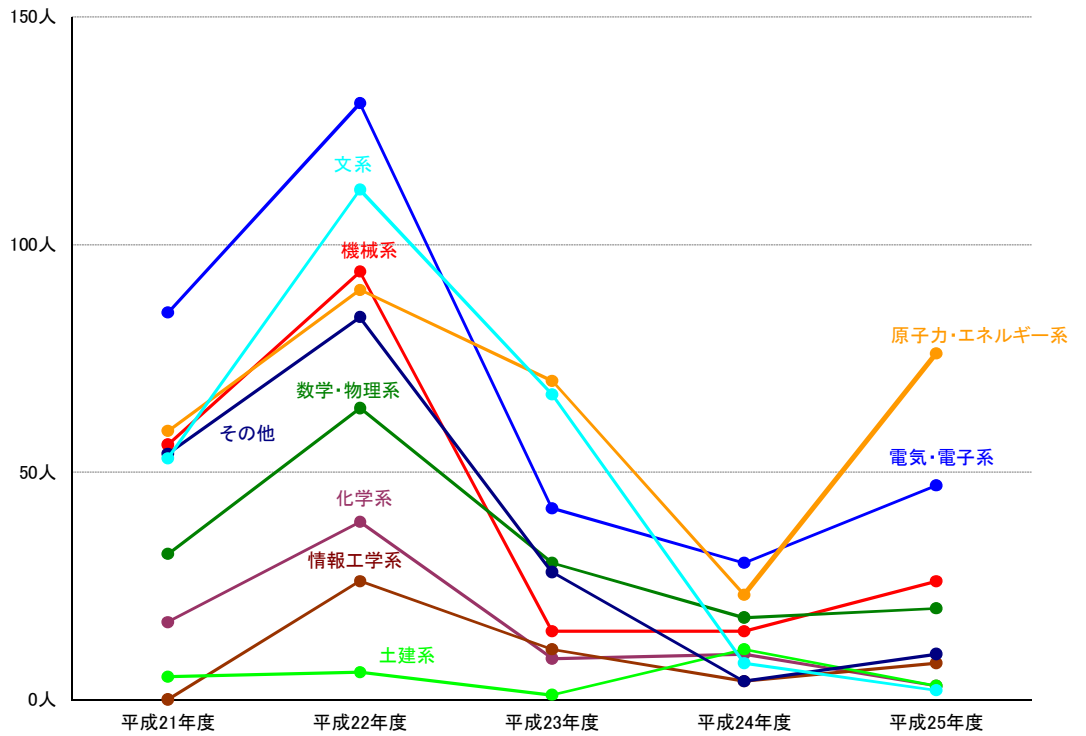


原子力・エネルギー系の学生の来場は微増しました。東京電力（株）福島第一原子力発電所事故以降、企業・機関からの採用ニーズの高い機械系、電気系、化学系などの学生の来場者数は依然として少ない（ほぼ横ばい）状況です。文系学生は減少傾向が続いています。

東京会場



大阪会場

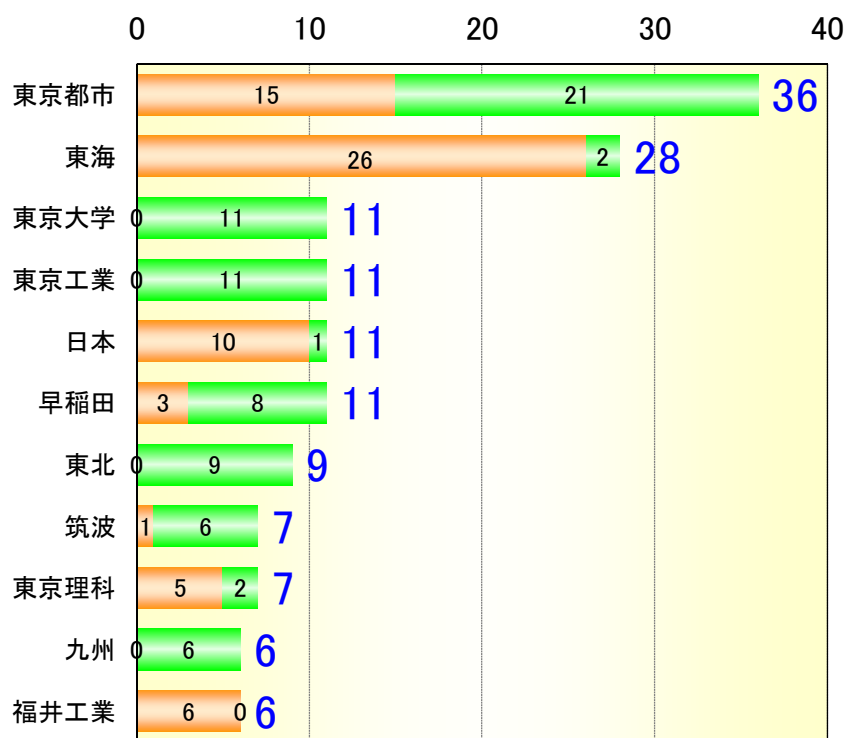


大阪では平成21年度より原子力産業セミナーを開催。

⑤大学別来場数

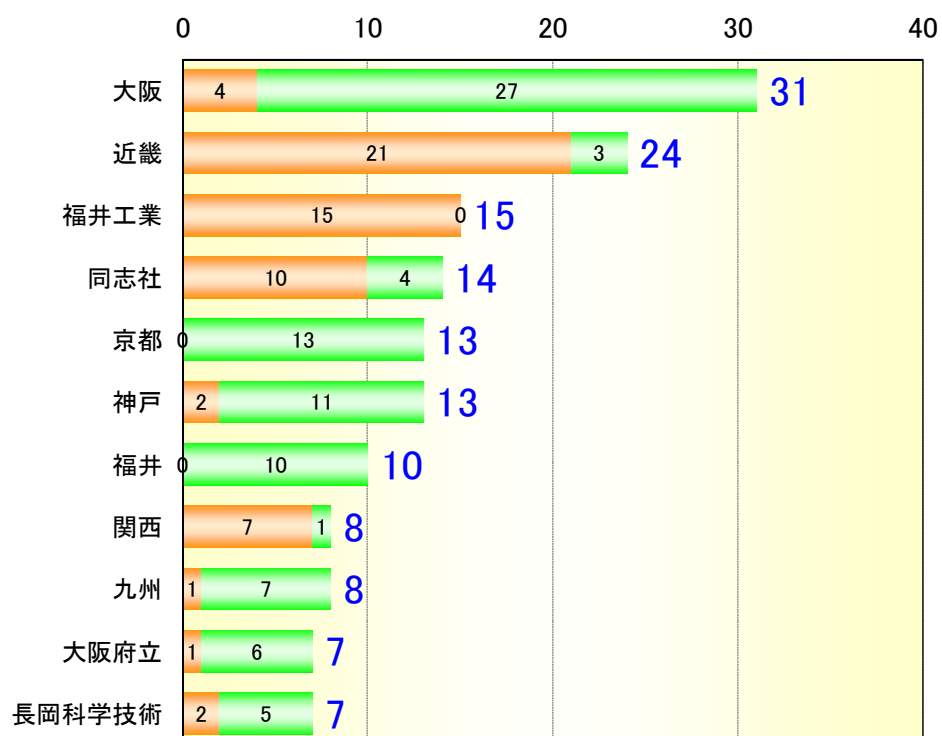
(上位10校)

<東京会場>



<大阪会場>

学部 院



(上位10校以外)

<東京会場>

芝浦工業大学	5
明治大学	5
茨城大学	4
金沢大学	4
近畿大学	4
法政大学	4
琉球大学	4
工学院大学	3
中央大学	3
東京電機大学	3
長岡技術科学大学	3
名古屋大学	3
北海道大学	3
大阪大学	2
熊本大学	2
首都大学東京	2
千葉大学	2
千葉工業大学	2
東京工科大学	2
東洋大学	2
福井大学	2
横浜国立大学	2

秋田大学	1
お茶の水女子大学	1
関東学院大学	1
九州工業大学	1
慶応義塾大学	1
国士舘大学	1
埼玉工業大学	1
中京大学	1
東京農業大学	1
東京農工大学	1
東北学院大学	1
広島市立大学	1
前橋工科大学	1
武蔵野大学	1
明星大学	1
横浜市立大学	1

<大阪会場>

広島大学	6
岡山大学	4
名古屋大学	3
立命館大学	3
愛知工業大学	2
大阪電気通信大学	2
岡山理科大学	2
京都工芸繊維大学	2
静岡大学	2
兵庫県立大学	2
愛媛大学	1
大阪市立大学	1
大阪工業大学	1

大阪産業大学	1
金沢大学	1
関西学院大学	1
岐阜高専	1
熊本大学	1
神戸市外国語大学	1
摂南大学	1
津山高専	1
徳島大学	1
富山高専	1
豊田工業大学	1
名古屋工業大学	1
福岡大学	1
福島高専	1

⑥来場学生データのまとめ

- ・セミナー全体の来場者数は、前回に比べて微増（約30名増）でした。
- ・東京会場・大阪会場とも、前回に引き続き、企業・機関からの採用ニーズの高い「機電系」学生の来場者数は依然として少ない（ほぼ横ばい）状況です。
- ・文系学生の来場者数は、減少傾向が続いています。

6. プレス対応

本セミナーの参加企業・機関数ならびに来場学生数が、原子力産業の実情と社会の原子力に対する評価と関心を端的に表しているため、メディア関係者の関心は高い。各メディアには原子力政策の方向性のいかんによらず、長期的に人材が必要であることを訴えました。掲載実績については、添付資料3のとおり。

（当日の各プレスの取材）

<東京会場>

- ・NHK
 - 当日午後6時からの全国版ニュースで報道
- ・朝日新聞
- ・読売新聞
 - 2月9日付けで記事掲載
- ・電気新聞
- ・北海道新聞
- ・産経新聞
- ・燦

<大阪会場>

- ・朝日新聞
- ・電気新聞
 - 12月26日付けで記事掲載

7. 総括・評価

- ・昨今の原子力産業を取り巻く厳しい状況の中、新卒採用を控えたり、採用計画の目途が立たない企業・機関も多く、参加企業・機関数は東京電力（株）福島第一原子力発電所事故前に比べてまだまだ少なく、依然として厳しい状況が続いています。ただし、東京電力（株）福島第一原子力発電所事故以降、新たに参加した企業もあり、一部企業では人材確保の必要性が出てきたものと考えられます。
- ・学生来場者数が微増したのは、主に原子力・エネルギー系の学生が増えたことによると考えられます。一方、企業・機関の採用ニーズの高い機械系・電気系・化学系などの来場者数は依然として少ない（ほぼ横ばい）です。また、原子力産業への理解促進という意味では、文系学生の減少も問題です。
- ・今年度のセミナーでは、この状況を改善するために、原子力産業で働く若手を活用して、積極的なプロモーションを展開しました。来場学生がやや増加したことや全国の様々な大学から学生が来場していることから、一定の効果はあったと考えられますが、依然として機械系・電気系・化学系など学生の来場が少なく、文系学生来場者数も減少傾向にあることから、次年度以降も工夫して来場学生の増加に努める必要があります。また、来場した学生の満足度をさらに高めるための実施内容の検討も行いたいと考えています。
- ・原子力・エネルギー系のない色々な大学の学生も来場していますので、セミナー開催の情報自体は行き届いていると思われれます。学生がセミナー会場まで足を運んでくれるには、原子力業界が若者に将来の展望、やりがい、夢を効果的に発信していけるかが重要と考えられます。

8. 課題

東京電力（株）福島第一原子力発電所事故以降、機械系・電気系・化学系などの参加学生が少なく、学生が原子力産業界を就職先として敬遠しているためと考えられ、大きな問題としてとらえています。

このような状況が続くと、原子力産業の技術維持が難しくなり、国全体の損失にもつながりかねません。国ならびに産業界全体がこの状況を真摯に受け止め、エネルギー・原子力政策の方向性にかかわらず、人材の確保が必要であることを認識し、優秀な人材を集めるために将来の展望、やりがい、夢を若者に効果的に発信していく必要があります。

また、国が原子力政策ならびに福島における廃炉・除染に係る明確なビジョンをわかりやすい形で示すことも期待されます。

添付資料

- 添付資料 1. セミナー会場の構成と写真
- 添付資料 2. 来場学生の声（学生アンケートより抜粋）
- 添付資料 3. メディアにおける掲載実績

添付資料 1. セミナー会場の構成と写真

①ブースエリア

参加企業・機関が各ブースにて、学生に対して自社説明会を実施するエリアです。



②講演コーナー

会場内に講演エリアを設置し、大学教授からエネルギー問題に係る講演、出展企業の若手社員による「仕事の内容」「仕事のやりがい」「原子力産業に興味を持った理由」などについての講演等が行われました。（プログラムは次頁参照）



(講演会プログラム)

<東京会場>

- ① 11:15~12:00 就活応援講座
「理系学生のための選考スケジュールと選考突破のポイント」
講演者：(株) マイナビ
- ② 12:30~13:00 エネルギー問題に係る講演
「20年後のために今なすべきこと」
講演者：岡本孝司 氏
東京大学大学院工学系研究科原子力専攻 専攻長・教授
- ③ 若手社員による講演
13:30~14:00 「PWR プラントメーカーで働く」
講演者：菫澤貴之 氏
三菱重工業 (株) エネルギー・環境ドメイン
原子力事業部 原子力安全技術部 リスク評価技術課
14:00~14:30 「原子力プラント弁設計業務のご紹介」
講演者：久保田亮 氏
日立GEニュークリア・エナジー (株)
原子力プラント部 弁設計グループ

<大阪会場>

- ① 11:15~12:00 就活応援講座
「理系学生のための選考スケジュールと選考突破のポイント」
講演者：(株) マイナビ
- ② 12:30~13:00 エネルギー問題に係る講演
「エネルギーと放射線：原子力で何をすべきか」
講演者：宇根崎博信 氏
京都大学原子炉実験所 教授
兼 京都大学大学院エネルギー科学研究科 教授
- ③ 若手社員による講演
13:30~14:00 「PWR プラントメーカーで働く」
講演者：福本智志 氏
三菱重工業 (株) エネルギー・環境ドメイン
原子力事業部 新型炉・燃料サイクル設計部 サイクル設備設計課
14:00~14:30 「原子力発電所を作るという仕事」
講演者：河合宏紀 氏
日立GEニュークリア・エナジー (株)
原子力計画部 プラント計画グループ

③コミュニケーション・エリア

ブースエリアでの説明後、参加企業・機関の担当者と学生が個別に話しをしたい時に、ラフな形でコミュニケーションをとるためのエリアです。フリードリンクも用意しました。また、来場学生の休憩場としてもご利用いただきました。



④展示コーナー

展示エリアでは、放射線の性質や、それを利用した技術について、パネルや放射線測定キットを用いて紹介し、理解活動を実施しました。大阪会場では、福井県原子力平和利用協議会 敦賀支部青年部にご協力いただきました。



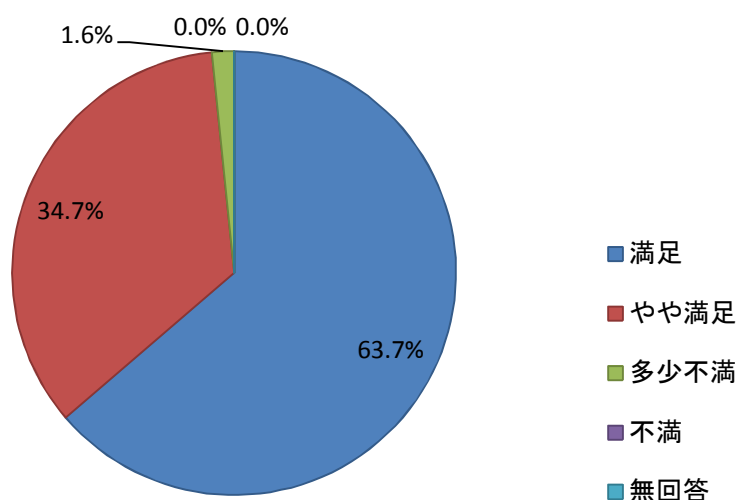
添付資料 2. 来場学生の声（アンケートより）

以下の来場学生の声は、入場時に学生が受付に提出するエントリーシートとは別に、当協会が独自に実施しましたアンケートよりの抜粋です。アンケートの提出は任意です。アンケートの回収率は、東京会場で約 77%、大阪会場で約 37%でした。東京会場と大阪会場での回答結果に傾向の違いは見られませんでしたので、データは両会場を合わせたものを掲載しました。

① 「本日のセミナーに参加された感想はいかがでしたか？」

学生からは「現在の原子力産業の様子を知ることができた。」「原子力という限られた分野で話を聞くことがなかったので役に立った。」「企業理解が大変深まりました。」などセミナー満足度の高い意見が多く、「満足」「やや満足」と回答した学生が 9 割を超え、来場学生の満足度は非常に高かったものと考えられます。

選択項目	回答数(割合)
満足	158(63.7%)
やや満足	86 (34.7%)
多少満足	4(1.6%)
不満	0(0.0%)
無回答	0(0.0%)
合計	248(100%)



回答理由・意見（アンケート記入欄から抜粋）：

東京会場

- ・どんな業種があるのか知れた。
- ・原子力専攻にとってありがたい企業ばかり。
- ・企業に対する理解が深まった。
- ・原子力に焦点をあてた話を聞いた。
- ・ネットなどではわからないこと聞いた。
- ・原子力専門のセミナーはありがたいです。
- ・原子力の話に特化しすぎており、迷っている人には説明の幅が狭く感じる。

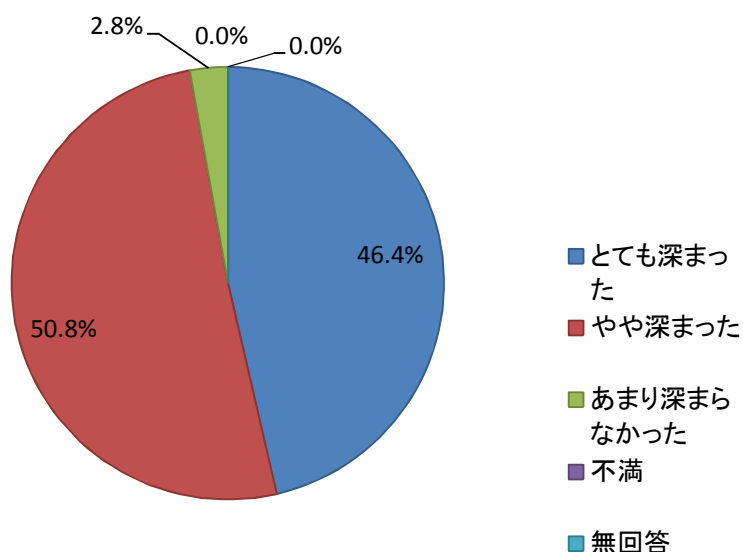
大阪会場

- ・原子力産業に特化したセミナーは他にはない。
- ・講演で先生のお話を聞いた為。
- ・HPではわからない雰囲気を知れた。
- ・興味のある企業を増やすことができた。
- ・とてもいい話を聞いた。もっと事前に調べればよかった。
- ・普段の説明会では聞けない、原子力分野の話を聞いた。

② 「セミナーに参加されたことで、原子力産業への理解は深まりましたか？」

学生からは「原子力の重要性を再確認できた。」「発電のイメージしかなかったので、他にもいろいろな分野があるから。」「国際的な仕事をしていてすごいと感じた。」などセミナーに参加したことで、理解が深まったという意見が多く、「とても深まった」「やや深まった満足」と回答した学生が9割を超え、本セミナーが学生の原子力産業への理解向上に非常に役立っていると考えられます。

選択項目	回答数(割合)
とても深まった	115(46.4%)
やや深まった	126(50.8%)
あまり深まらなかった	7(2.8%)
不満	0(0.0%)
無回答	0(0.0%)
合計	248 (100%)



回答理由・意見（アンケート記入欄から抜粋）：

東京会場

- ・やりがい伝わってきた。
- ・各企業の原子力との関わりを知れたから。
- ・企業ごとの原子力事業に対する理解が変わった。
- ・ネットや冊子ではわからない情報を得ることができた。
- ・具体的なイメージができた。
- ・原子力産業でも知らない分野の話を知れた。
- ・原子炉に対する新たな知識が得られた。
- ・WEBだけではわからない情報を得られた。
- ・同じメーカーでも様々な特徴があることを知れたから。
- ・知っていた以上に幅広い企業が関わっていることを知りました。
- ・あまり原子力産業に関心がなかったため。

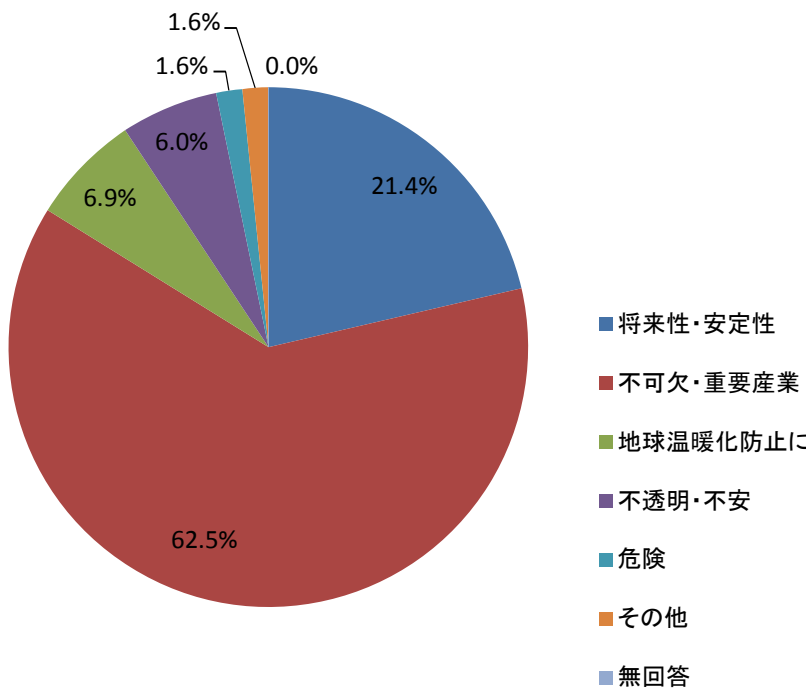
大阪会場

- ・より具体的なイメージが持てた。
- ・原子力が今後も国にとって重要である為。
- ・各企業、団体のやくわりをつかめた。
- ・原子力の安全に対する情熱と、その業務。
- ・まだ自分の勉強不足により、わからないことが多かった。
- ・講演がよかった。
- ・企業単位での取り組みを知ることができた。
- ・プラントについては少し理解が深まった。
- ・様々な職種があるから。
- ・直接話を聞いた。
- ・企業単位での取り組みを知ることができた。
- ・じっくりと説明してもらったため。
- ・キャスクのあり方を知れました。
- ・様々な職種があるから。

③ 「原子力産業に対して、どのようなイメージをお持ちですか？」

学生からは「エネルギーセキュリティの面から重要」「日本の経済を支えるのは最終的に原子力だと思う。将来のエネルギー資源の枯渇や争奪を見据えて」「原子力以上に安定かつ安価でエネルギーを生産できる技術はない」など原子力産業に対して肯定的な意見が多く、「将来性・安定性」、「不可欠・重要産業」、「地球温暖化防止に貢献」のプラスイメージで回答した学生が「不透明・不安」、「危険」のマイナスイメージで回答した学生を遥かに上回っています。来場した学生は、原子力産業に肯定的なことがわかります。

選択項目	回答数(割合)
将来性・安定性	53(21.4%)
不可欠・重要産業	155(62.5%)
地球温暖化防止に貢献	17(6.9%)
不透明・不安	15(6.0%)
危険	4(1.6%)
その他	4(1.6%)
無回答	0(0.0%)
合計	248(100%)



回答理由・意見（アンケート記入欄から抜粋）：

東京会場

- ・国を支えるベース電源として不変。
- ・環境のことを踏まえても、重要だと再確認できた。
- ・電力供給の大切な手段。
- ・日本がどのような方向になろうとも必ず必要。
- ・あまりにも情報が錯綜しているので。
- ・やめるにしても、続けるにしても、大事。
- ・エネルギー自給率の観点。
- ・福島的一件で原子力の負のイメージが強すぎる。
- ・福島をどうにかしないと先に進めないから。
- ・良い面しかアピールされていないから。
- ・危険性への対策は必要。
- ・政策が不安。
- ・常に逆風。

大阪会場

- ・今後もやはり必要である。
- ・エネルギーの安定に為には不可欠。
- ・これがないと赤字国家になってしまう。
- ・電力や放射性物質が産業に必要なため。
- ・資源の乏しい日本には不可欠。
- ・新しい分野の開拓の可能性。
- ・資源・環境の点から当面は使っていく必要がある。
- ・他の燃料には限りがあるので。
- ・原子力を終わらせるという重要な仕事がある。
- ・使用後燃料の処理について不安。
- ・長期的なイメージがわからない。
- ・使用後燃料の処理について不安。

④ 「原子力産業セミナー2015 に対するご意見・ご感想があればお聞かせください。」

多くの学生が、本セミナーは就職活動・業界研究に役立つという内容の意見を書いています。本セミナーが、原子力理解促進活動の一助を担うとともに学生へ具体的な業務情報を提供し、それまで抽象的だった仕事のイメージを具体化させ、学生が原子力産業において就職活動を進める上で、手助けすることができました。

(アンケート記入欄から抜粋)

東京会場

- ・原子力関係の会社が同会場に集まることで企業のつながりを知ることができました。
- ・このような原子力に特化したセミナーは有意義です。今後も開催して欲しいです。
- ・B to B企業を知ることができてとても有意義でした。
- ・こういう専門的な合説は参加者も少なく、意欲的で互いに刺激され、面白いです。
- ・原子力企業が一堂に会する機会はほとんどないので、大変参考になりました。今後も盛り上げて欲しいです。
- ・原子力系の企業だけが集まるセミナーはないので、とても参考になりました。より規模が大きくなって、参加企業が増えるといいと思います。
- ・もっと企業数を増やして欲しい。また、関西の企業にも参加して欲しい。
- ・文系学生ですが、技術系のアツい想い、会社全体への理解につながり、大変有意義なセミナーとなりました。
- ・前回参加したときよりも規模が大きくなっていて、原子力産業はいい方向に向かっていると感じた。
- ・大変勉強になりました。交通費を払ってきた甲斐がありました。
- ・原子力産業に対しての理解や興味を多く持つことができました。
- ・自分の理解を深めることができ、とてもいいセミナーでした。
- ・原子力の今後の将来性や発展、重要性などを熱く語る講演会またはディベートを開催して欲しい。原子力の最前線で活躍する人の思いや考えを知りたいです。
- ・北陸から来た甲斐がありました。

大阪会場

- ・非常に質問のしやすい環境で就職活動の参考になりました。特に原子力専攻の学生として、業界をしぼってセミナーをやったのはありがたかった。
- ・もう少し多くの企業に参加して欲しかった。
- ・企業数を増やして欲しい。
- ・福岡でも開催して欲しい。
- ・今後の自分の就職活動の方向性が見えてきた。
- ・現場で実際に働いている生の意見が聞けたことは今後の活動にとっても有益になった。
- ・自分が何をしたいのか再確認ができました。また、それができる企業も見つけることができ、本当に良かったです。
- ・原子力発電プラントとは別の領域で原子力を使っている産業がもっと多ければいいと思いました。
- ・原子力に関係する産業に興味があったので、とても良かった。
- ・集まった企業は魅力的なところばかりでした。
- ・じっくり企業の方と話すことができよかった一方、時間が十分でなく、いけない企業もあった。
- ・出展企業数がちょうどよく、しぼってまわられた。
- ・規模としてもちょうどいいと感じた。
- ・ドリンクコーナーや対話コーナーの充実がよかった。企業の方も多く、その点もよかった。

添付資料 3. メディアにおける掲載実績

-	掲載日	媒体	タイトル、見出し等
1	12月26日(木)	電気新聞	合同説明会 学生5割増 原産協・関原懇 大阪で関連企業出展
2	1月13日(月)	日本経済新聞	「都内で就職説明会 日本原子力産業協会」
3	1月12日(日)	NHK 午後6時全国ニュース	原子力産業セミナー会場の模様、参加学生インタビュー、服部理事長のコメント
4	1月14日(火)	J-キャストニュース (Web)	「原子力関連企業が合同で就職説明会 200超の学生が参加」
5	1月14日(火)	ハフィントン・ポスト (Web)	「原子力産業が人材不足 これから必要な人材とは 廃炉作業でヒューマンエラー発生も」
6	1月14日(火)	livedoor ニュースサイト ディスカッションコーナー BLOGOS (Web)	「学生の『原子力業界離れ』が顕著に・・・」 どう思う？
7	1月21日(火)	日刊工業新聞	「原子力産業の就職人気低迷 原産協」
8	2月9日(日)	読売新聞	「原子力業界志望の学生微増」

以上